



＼ぴりんぼらん うちなーぐち／

気持ちが伝わる!

沖縄語 リアルフレーズ BOOK

比嘉光龍[著]

研究社

はじめに

うちなーぐち（沖縄語）という言葉聞いたことはあるでしょうか？ これまでは沖縄方言、琉球方言などと呼ばれてきましたが、2009年ユネスコの危機言語指定などもあり、方言ではなく「言語」だと認識され始めています。それは世界の少数言語復興運動の影響もあるでしょう。例えば、欧米の少数言語（英国のウェールズ語、スペインのカタルーニャ語、米国のハワイ語など）の中には、義務教育への導入、メディアでの活用、さらに行政機関での使用など、かなり活発な復興事例もあります。欧米やアジアでは1国多言語が普通で、1国1言語という認識は日本とアメリカくらいだと言えるほど、少数言語の権利を保障する国が増えていきます。

うちなーぐちの現状理解のため、筆者の生い立ちを少し紹介します。筆者は1969年那覇生まれで、父は米国人ですが全く知らず、母は沖縄島の金武町出身です。生後すぐ、事情により母の兄夫婦の養子となりました。この伯父伯母はうちなーぐち母語話者ですが、筆者は日本語8割うちなーぐち2割で育てられました。こういう言語環境は筆者の世代では一般的で、その結果、多少聞けても話すことはできません。筆者より若い世代は聞くこともままならない状況です。その大きな理由は、戦前・戦後、学校でうちなーぐちを使うと罰として「方言札」を首から掛ける、また、教師が怒る、という理不尽なことで、親や祖父母世代は劣等感を抱き、子どもの教育にうちなーぐちを用いなくなったからでしょう。

筆者は三線を始めた20年前から、沖縄芝居の名優 真喜志康忠氏（1923-2011年）、そして首里士族の家系にお生まれになった屋嘉比富子さん（1917年生まれ）を師匠として、うちなーぐちを聞き、話す勉強をしてきました。本書のうちなーぐちの会話は、この屋嘉比さんに全面的にチェックをしていただきました。ここに感謝申し上げます。また、音声の伊志嶺忍さんは若く、ほとんど話せない世代ですが、お名前通りの筆者の指導を「忍」耐強く受け、ネイティブと言えるほどの発音や発声を吹き込んで下さいました。そして最後に、少数言語であるうちなーぐちのフレーズブックを出版する機会を与えて下さった研究社と、編集担当者としていろいろな面でサポートして下さった中川京子さんに感謝申し上げます。

比嘉光龍

〈中略〉

本 PDF では iv - v ページを省略しています

[ナレーション]

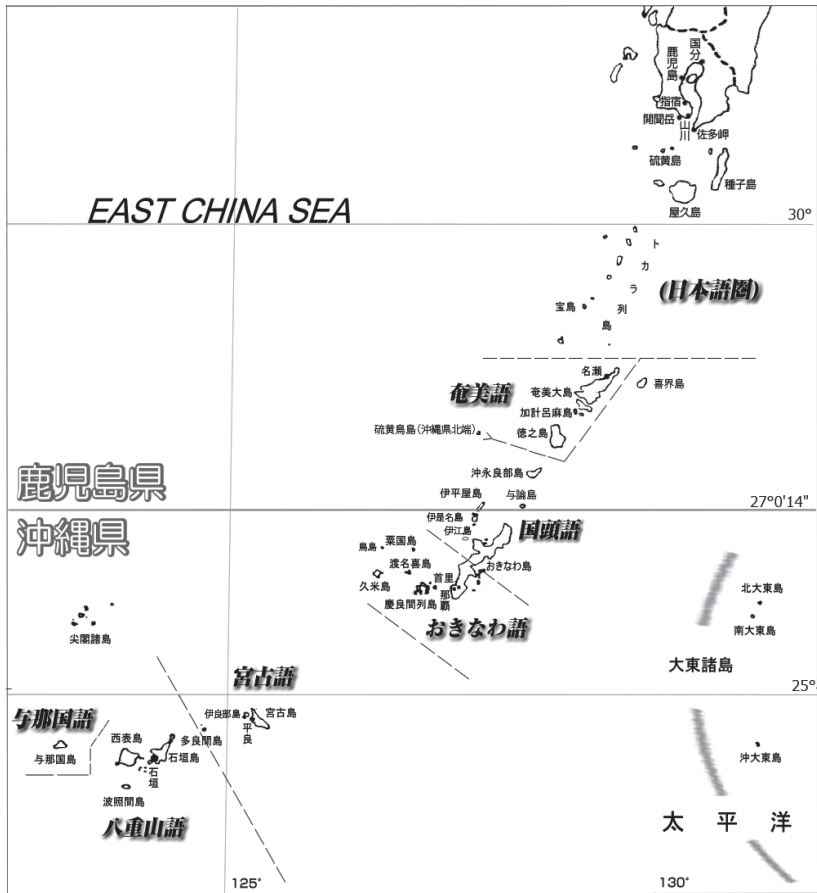
比嘉 光龍（歌三線者、沖縄語講師。沖縄大学地域研究所 特別研究員。沖縄語講師としてテレビ出演、教育テレビ番組脚本執筆、ラジオ番組パーソナリティ、など）

伊志嶺 忍（沖縄県立芸術大学音楽学部卒業（琉球芸能専攻）。琉球舞踊 阿波連本流啓扇紅節の会 教師。国立劇場おきなわ主催公演、NHK 沖縄の歌と踊り、海外公演など出演多数）

鈴木加奈子（元静岡第一テレビアナウンサー。現在はナレーター・MCとして活動するほか、大学で留学生の日本語指導にあたる）

琉球諸語

琉球諸語とは、奄美語、国頭語、おきなわ語、宮古語、八重山語、与那国語の6つの言語の総称である。



© 比嘉 光雄

うちなーぐちとは

1. 琉球諸語について

2009年2月、ユネスコは琉球諸島の言語として奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語の6つがあるとし、これらを「危機に瀕する言語」として発表しました。前頁の地図にもあるように、もともと琉球諸島の各地域ではこれらの言語が話されており、首里を王都とした琉球王国では沖縄語の中の首里ことばが公用語的な役割を持っていました。しかし、1879年(明治12年)の沖縄県強制設置と同時に、公的教育は日本語のみで行なわれるようになり、強力な標準語励行のもとで急激に話者が減った結果、今では日常的な話者は高齢者のみになってしまいました。これらの言語のうち、本書では主に沖縄島中南部の首里と那覇のことばを中心とした沖縄語(うちなーぐち)を扱っています。また、本書では、ユネスコの発表を踏まえ、これらをそれぞれ独立した一つの言語と見なす立場を取っていますので、本文中でもいわゆる標準語を「日本語」と呼んで、沖縄語(うちなーぐち)と区別しています。

2. うちなーやまとうぐちについて

上で述べた琉球諸島の伝統的な言語に対して、明治12年以降、特に戦後の沖縄では沖縄語と日本語の混ざった新しいことばが生まれました。そのうち、沖縄島地方で広く話されているのが「うちなーやまとうぐち(沖縄語的日本語)」です。その多くは語彙や文法が日本語と似ており県外の人でも理解できるため、沖縄を舞台としたドラマなどで「沖縄らしさ」を表現するためによく使われます。その中でもよく聞く「おじい」「おばあ」は、実はうちなーやまとうぐちで、本来のうちなーぐちでは「おじいさん」を「**たん前**」、**「おばあさん」を「うんめー」**と言います。うちなーやまとうぐちにはさまざまなパターンがあります。少し紹介すると、語頭は日本語で語尾はうちなーぐちの「ゆいまーる(結い)」や、語尾のみを日本語に換えた「とるるばるくぼんやりする」「まーさいくおいしい」、うちなーぐちの日本語直訳「だからよーくそうだよね」など、これらは日本語との接触により生まれた新しいことばで、本来のうちなーぐちとは違うことばです。本書では、このうちなーやまとうぐちではなく、本来のうちなーぐちを扱っています。

3. 本書で使っているうちなーぐちについて

3.1 本書では、上で述べた沖縄語(うちなーぐち)の中でも、特に琉球王国の政治・文化の中心地であった首里のことばをベースに、商業の中心であった那覇のことばを採り入れたものを「うちなーぐち」と呼んでいます。これはいわ

ば沖縄島中南部の標準語的存在で、比較的通じやすいことばですが、その一方で沖縄には数多くの島々があり、地域によってもことばが違ふと言われています。本書で覚えたフレーズを使ってみると、周りのネイティブスピーカーの方に「ここではこう言うんだよ」と教わることがあるかもしれません。そのようなときは地域のことばも覚えて、あなたのうちな一ぐちのテリトリーを広げていきましょう。

3.2 本書のうちな一ぐちは首里ことばをベースにしていますので、首里と那覇で違いがある場合に、首里ことばの方を優先して載せていることがあります。例えば、注釈の中で動詞の基本形を示すときに、語尾が「～ゆん」「～いん」の両方あるものは、基本的に首里でよく使われる「～ゆん」を出しています。那覇の言い方を知りたいときは「～ゆん」を「～いん」に置き換えてください。例：「**分かゆん**」〈わかる〉は那覇では「**分かいん**」となります。

3.3 うちな一ぐち、特に首里ことばでは、女性はより丁寧でやわらかい表現（いわゆる「女性言葉」）を使う習慣が根強く残っていて、普通は丁寧語（日本語の「です・ます」にあたる表現）など敬語を使うことが望ましいとされています。女性が「女性言葉」を使わないのはごく親しい間柄に限られるので、そういう場合、本書ではダイアログの中に話者同士の間柄（「母・息子」「夫・妻」など）を明示することにしました。

3.4 本書のダイアログでは、男性は女性に比べるとややぞんざいな言葉遣いをしている場合が多いですが、相手によっては（特に年上に対して）そのまま使うと失礼にあたる恐れがあり、十分に注意が必要です。うちな一ぐちでは敬語を正しく使うことが大変重視されるので、男女を問わず丁寧な表現を積極的に身につけるようにしてください。

4. うちな一ぐちの発音について

4.1 特に注意すべきうちな一ぐち独特の発音として、声門閉鎖音があります。声門閉鎖音とは、一度声門を閉じたあと、呼気と一緒に声門が開いたときに出る音です。声が出る前に一瞬喉が詰まったように聞こえますので、音声をよく聞いて確認してください。なお、下記、各項目左端の[]に入った記号は、該当する発音を国際音声記号 (IPA) で表記したものです。



01

[ʔa]: **あびゆん** 〈叫ぶ〉。

[ʔi]: **いちやゆん** 〈会う〉。

[ʔu]: **うー** 〈はい〉。

[ʔe]: **いえーさち** 〈挨拶〉。

[ʔo]: **おーゆん** 〈喧嘩する〉。

[ʔja]: **いやー** 〈お前〉。

[ʔju]: いゆん〈言う〉。

[ʔjo]: いよーいーぐわー〈赤ちゃん〉。

[ʔwa]: うわー〈豚〉。

[ʔwi]: ういー〈上〉。

[ʔwe]: うえんちゅ〈ねずみ〉。

[ʔn]: うんま〈馬〉。

4.2 うちな一ぐちでは声門閉鎖音の有無によって別の単語になってしまう例が多くあります。以下の例では、声門閉鎖音を伴う時にはそれを際立たせて発音しなければならず、その反対の場合は声門閉鎖音がないことを際立たせて発音する必要があります。音声で違いをよく聞き比べてみてください。



02

声門閉鎖音あり／なし

[ʔi] いん〈犬〉／[ji] んん〈縁〉

[ʔu] うとう〈音〉／[wu] をうとう〈夫〉

[ʔe] いえー〈ねえ、おい〉／[je] ゑー〈まあ、へえ〉

[ʔo] おーじ〈扇〉／[wo] をーじ〈王子〉

[ʔja] いやー〈お前〉／[ja] やー〈家〉

[ʔwa] うわー〈豚〉／[wa] わー〈私の〉

[ʔn] うんに〈稲〉／[n] んに〈胸〉

4.3 うちな一ぐちでは、「～や」〈～は〉、「～んかい」〈～に〉などの助詞は、以下のように、前に来る母音と融合して音変化を起こすことがよくあります。

あま〈あちら〉＋～や〈～は〉→あまー〈あちらは〉。

くり〈これ〉＋～や〈～は〉→くれー〈これは〉。

っ人〈人〉＋～や〈～は〉→っ人^{ちよー}〈人は〉。

夕飯^{ゆーばん}＋～や〈～は〉→夕飯^{ゆーばんのー}〈夕飯は〉。

温泉^{おんせん}＋～んかい〈～に〉→温泉ぬんかい^{おんせ}〈温泉に〉。

本書ではこれらの音変化が出てくるたびに注釈を加えるようにしました。

4.4 うちな一ぐちでは、音を長く伸ばすか否かが言葉の意味を特定するうえで重要になる場合があります。例えば、「てーふあ」は「冗談」の意味ですが、「てーふあー」と語尾を伸ばすと「冗談を言う人」の意味になります。本書では、この長く伸ばす音を音引き(ー)を使って示していますので、発音する際にはこの音引きにも注目してください。ただし、感情的に話す場合などには、この音引きが短めに発音されることもあります。実際の音の長さについては音声を参考にしてください。

5. 本書中のうちな一ぐち表記について

5.1 本書のうちな一ぐち表記には漢字ひらがな交じり文を用いています。例:

くり ^{こー}買ていっ ^{ちくい}来呉れ。これは、琉球王国時代のうちな一ぐち (おもろそうし、^{くみをうどうい}組 踊、^{るーか}琉歌など) がほとんど漢字とひらがなで表記されていたことに拠っています。

5.2 漢字表記を用いるに当たっては日本語との語源的対応を原則としました。

例: 「^{ちゆ}清らさん」〈美しい〉(これを「^{ちゆ}美らさん」とするのは当て字)。ただし、語源的対応がなくても慣用的な表記として定着しているものについては、一部使うことにしました。例: 「^{まやー}猫」、「^{ぬきが}男」など。

5.3 うちな一ぐちの漢字表記には原則としてすべてにルビを振っています。

5.4 うちな一ぐちには現代日本語から借用した言葉が多く使われていますが、そのような新しい借用語にはルビは振っていません。ルビを振っていない語の発音は日本語と同じです。ただし、うちな一ぐちの助詞「～や」〈～は〉と融合して音変化を起こした場合 (上記 4.3 参照) などにはルビを振ることにしました。例: ^{ざっしよー}雑誌 〈雑誌は〉。*日本語の「雑誌」とうちな一ぐちの「～や」が融合したもの。

5.5 琉球王国時代、うちな一ぐちのひらがな表記には琉球独自の歴史的仮名遣いが用いられていました。それを明治以降、伊波普猷、島袋盛敏、そして野村流工工四などが発音に即した表記 (主にカタカナ表記) にしました。本書のひらがな表記は、これら先達の発音に即した表記を基礎としています。そのうち、現代日本語で馴染みがなく、特に注意を要するひらがな表記は以下のとおりです (上記 4.1, 4.2 参照)。このうち「**をう**」「**いや**」「**いゆ**」「**うわ**」「**をえ**」「**うん**」は 2 文字で書いてありますが、それぞれ 1 音で発音します。



03

ゐ: [ji] 音を表す。例: **ゐなぐ** 〈女〉。

をう: [wu] 音を表す。例: **をうー**をうー 〈いいえ〉。

ゑ: [je] 音を表す。例: **ゑーま** 〈八重山〉。

いや: 声門閉鎖音を伴った [ʔja] 音を表す。例: **いやー** 〈お前〉。

いゆ: 声門閉鎖音を伴った [ʔju] 音を表す。例: **いゆん** 〈言う〉。

うわ: 声門閉鎖音を伴った [ʔwa] 音を表す。例: **うわー**ふーる
〈豚便所〉。

をえ: [we] 音を表す。例: **うゆをえー** 〈お祝い〉。

うん: 声門閉鎖音を伴った [ʔn] 音を表す。例: **うんじ** 〈ほんど ?〉。

5.6 本書のうちな一ぐち文には「文節分かち書き」を採用しました。これは、意味の切れ目を示して文意を捉えやすくするもので、音声上の切れ目を表すものではありません。例: **誰が** ^{たー}くま ^{そーじ}掃除 **さが** 〈誰がここ掃除やったんだ〉。基本的に日本語における分かち書きに従っていますが、一部本書独自の方式を採っている箇所もあります。

CONTENTS

はじめに	iii
この本の使い方	iv
本書で使われている記号	v
音声について	v
琉球諸語言語地図	vii
うちなーぐちとは	vii

◇ Chapter 1	ベーシックフレーズ	1
◇ Chapter 2	喜怒哀楽フレーズ	21
◇ Chapter 3	日常生活フレーズ	39
◇ Chapter 4	意見・主張フレーズ	51
◇ Chapter 5	依頼・忠告フレーズ	65
◇ Chapter 6	遊び・食事フレーズ	81
◇ Chapter 7	恋愛フレーズ	97
◇ Chapter 8	ビジネスフレーズ	109
◇ Chapter 9	ことわざ・慣用句フレーズ	123

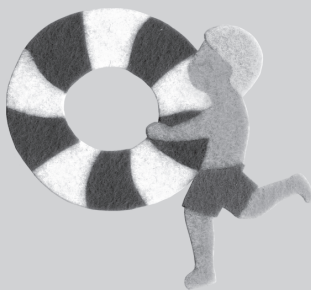
沖縄語索引	133
日本語索引	138

Chapter 1

ベーシックフレーズ



あいづちや受け答え、基本のあいさつなど、
どんな場面でも使える、短くて便利なフレーズを集めました。
コミュニケーションの始まりは、簡単な言葉のやり取りから。



1 うー

▶ はい

A: あんしえー、くり ^{こー} 買って ^{ちくい} 来呉れー。*B: うー、あんしえー、待 ^ま ちよーてい ^{くい} 呉みそーれー。

A: じゃあ、これ買ってきてくれよ。

*B: わかった、じゃあ、ちょっと待っててね。

★あんしえー: それでは。「あんし」〈それで〉+「～や」〈～は〉の融合した形。このように「～や」は前に来る母音と融合して音変化することが多い(xページ4.3参照)。

★買 ^{こー} てい: 買って。←「買 ^{こー} ゆん」〈買う〉。★つ来: 来て。←「来 ^{ちゅー} ん」〈来る〉。★呉 ^{くい} れー: (～して) くれよ。「呉 ^{くい} みそーれー」〈(～して) くださいよ〉を使うとやわらかく聞こえる。

★うー: はい。年上に対する応答の言葉で、承諾・肯定・同意を表す。うちな一ぐちの特徴である声門閉鎖音を伴わずに発音するとぞんざいな返事になってしまうので注意。

★待 ^ま ちよーてい: 待っていて。←「待 ^ま ちよーん」〈待っている〉。

2 をうーをうー

▶ いいえ

A: 誰 ^{たー} が くま ^{そーじ} 掃除 さが?*B: をうーをうー、我 ^{わー} が さびらんどー。

A: 誰がここ掃除やったんだ?

*B: いいえ、私はやってませんよ。

★くま: ここ。

★さが: したか。「さん」〈した〉+「～が」〈か〉。「～が」は疑問を表す。

★をうーをうー: いいえ。年上に対する応答の言葉で、否定・拒絶などを表す。

★我 ^{わー} が さびらんどー: 私がしませんよ。日本語では「私は」となるところ。「どー」〈(だ)ぞ、よ〉は強調を表す。

3 だー

CHECK

▶ ねえ／おい

A: だー、眼鏡^{がんにちよー} ねーれー。

*B: うりたい。

A: ちょっと、メガネ取って。

*B: はい。

★だー: ものを要求したり尋ねるときに使う言葉。

★ねーれー: よこせよ。←「ねーゆん」〈よこす、差し出す〉。

★うり: ほら、それ。注意を促したり、ものを渡すときなどに言う言葉。「たい」は、女性が年上に話しかけるとときに語末や文末に付ける敬語。男性が使う場合は「さい」を付ける。

4 うん くー 行じ来ゐー。

CHECK

▶ 行ってくるよ。

A: とー、行じ来ゐー。

*B: 忘^{わし}とーしえー 無^{ねー}やびらに？

A: なら、行ってくるよ。

*B: 忘れ物はない？

★とー: さあ、なら。何かを始める前のかけ声。

★行じ来ゐー: 行ってくるよ。「うん」の発音については xi ページ 5.5 参照。「ゐー」〈よ、ねえ〉は、同年輩または年下へ親しみの気持ちを表す際に語尾に付ける。

★忘^{わし}とーしえー: 忘れているものは。「〜しえー」は「〜し」〈(〜する)もの〉+「〜や」〈〜は〉の融合した形。★無^{ねー}やびらに: ありませんか。「無^{ねー}やびらん」〈ありません〉+「〜ゐ」〈か〉。「〜ゐ」は疑問を表す。



5 むどぅ ちゃ 戻てい来んどー。

CHECK ✓



▶ 戻ってきたよ。

A: ^{なま}今る ^{むどぅ} 戻てい ^{ちゃ} 来んどー。

*B: ^{うんじょー} 御 胴、^あ まー ^あ 歩っち ^あ めんそー ^あ ちゃが？

A: ただいま、今帰ったよ。

*B: もう、どこ行ってたの？

★^{なま}今る: 今こそ。「～る」は強調したい語に付ける。

★^{むどぅ}戻てい: 戻って。←「^{むどぅ}戻ゆん」〈戻る〉。

★^{ちゃ}来ん: 来た。←「^{ちゅー}来ん」〈来る〉。

★^{うんじょー}御 胴: 「^{うんじゅ}御 胴」〈あなた〉 + 「^あ～や」〈～は〉の融合した形。「もう」「まったく」のニュアンス。

★^あまー 歩っち ^あ めんそー ^あ ちゃが: 直訳すると「どこを歩いていらっしやったのですか」。「^あめんしえーん」で「いらっしやる」。

6 いーななー？

CHECK ✓



▶ もう？／そんな早く？

A: ^{んな} 皆 ^ま 待っちよーくとう、^{ふえー} 早く ^い 行か。

*B: いーななー？

A: みんな待ってるから、早く行こう。

*B: もう行くの？

★^ま待っちよーくとう: 「^ま待っちよーん」〈待っている〉 + 「^い～くとう」〈～から〉。

★^い行か: 行こう。←「^い行ちゅん」〈行く〉。

★^いいーな: もう、そんなに早く。予定が早まった際に言う。他に「^{ふえー}うぬ 早さ」〈こんなに早く〉もよく使う。

★^いなー: かい。軽く質問する際、語尾に付ける。「^いいーななー」は直訳すると「もうかい」。

7 うんじ?

CHECK

▶ ほんと?

A: うんじ? ^{ゆく} 讒しえー あらんらやー。

*B: ^{ふんとー} 本当やいびーんどー。

A: ほんと? 嘘じゃないよね。

*B: ほんとよ。

★うんじ: 話の真偽を確かめるときに使う言葉。丁寧に言うときは「うんじさい」(女性には「うんじたい」〈本当ですか〉)となる。

★^{ゆく} 讒しえー: 「^{ゆく} 讒し」〈嘘〉+「~や」〈~は〉の融合した形。

★あらんらやー: ~ではないんだよね。

★やいびーん: ~です。

8 あね

CHECK

▶ ほら

A: あね、あまんかい ^{みー} 見ゆしえー。あまやんどー、^{きらまー} 慶良間。

*B: まーやいびーが?

A: ほら、あそこに見えるじゃん。あそこだよ、慶良間諸島は。

*B: どこなの?

★あね: ほら、それ。注意を促すときに言う。

★あま: あそこ。

★~んかい: ~に。場所を表す。

★^{みー} 見ゆしえー: 見えるだろ。「~しえー」は念を押したり同意を求める言い方。「^{みー} ちゃしえー」〈言っただろ〉など。

★やんどー: ~だよ。

★^{きらまー} 慶良間: 「^{きらまー} 慶良間」+「~や」〈~は〉の融合した形。

★まーやいびーが: どこですか。



9 やいびーている？



▶ そうだったの？

A: 皆^{んな}ぬ カラオケ代^{でー}や ありが 持^むち^くい^いてーたる ばーてー。*B: やいびーている？ 銭^{じんむ}持^ちやいびーさやー。

A: みんなのカラオケ代はあいつが持ってくれてたんだよ。

*B: そうだったの？ お金持ちねえ。

★あり: 彼。

★^くい^いてーたる ばーてー: 直訳すると「(～して) くれてあったわけなんだよ」。「ばー」は「わけ、理由」、「～てー」は「(だ) よ」の意。

★やいびーている: (そう) でしたか。相手に問い返す表現。「あん」〈そう〉を付けて、「あんやいびーている」という言い方もある。

★^{じんむ}銭^む持^ち: 金持ち。

★やいびーさやー: ～ですよねえ。「やいびーん」〈～です〉+「～さ」〈よ〉+「やー」〈ねえ、なあ〉。

10

じちえー
実

▶ 実は

A: ^{じちえー}実、^{んかし}昔 ありとう ^{おー}闘^いていよー。*B: あん^{はなし}る やいびーている。あんすく^{はなし}と^{はなし}うる 話 さびらんてーさやー。

A: 実は、前にあいつと揉めちゃってさ。

*B: そうだったんだ。だから口きかなかったのね。

★^{じちえー}実: 「^{じち}実」+「～や」〈～は〉の融合した形。★^{おー}闘^いてい: 喧嘩して。←「^{おー}闘^いゆん」〈喧嘩する〉。★あんすく^{はなし}と^{はなし}うる: 直訳すると「そうするからこそ」。

★さびらんてーさやー: しなかったのですよねえ。

し
済むんよー。

▶ 大丈夫だってば。

母：あいえー、^{はなだ}鼻垂いぬ ^{うん}出じとーくとう、うぬ ティッシュ
さーに ^{はな}鼻 しびれー。息子：し
済むんよー。母：あらあら、鼻水出ちゃってるよ、このティッシュで鼻かみな。
息子：大丈夫だってば。

★あいえー：ああ、おお。「あきさみよー」(⇒[39])と同じく喜怒哀楽の場面で発する言葉。

★^{はなだ}鼻垂い：鼻水。★^{うん}出じとーくとう：出ているから。「^{うん}出じゆん」で「出る」。

★～さーに：～で。手段を表す。

★しびれー：(鼻を)かみなよ。←「しびゆん」(鼻を)かむ)。

★し
済むんよー：(～しなくて)いいよ。直訳は「済むよ」。「よー」(よ、ね)は念押しを表す。

12 あはー



▶ ああ

A：^{くし}腰から ^{くいー}声 ^か掛きたる ^{ちよー}っ人 ^{しんしー}先生る やんどー。*B：あはー、^{しんしー}先生る やいびーている。

A：後ろから声かけたのは先生だよ。

*B：ああ、先生だったのね。

★^{くし}腰：後ろ。「腰」から「背面」へ転義したもの。体の部位の「腰」も「^{くし}腰」と言う。★^か掛きたる：すぐ後に名詞が来て、その名詞を修飾する形。←「^か掛きたん」(かかけた)。★^{ちよー}っ人：「^{ちよー}っ人」(人) + 「～や」(～は)の融合した形。

★あはー：納得したり思い出したりしたときに発する言葉。